

## 今年の夢は？ 目標は？

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

冬休み中、子どもたちは幸いにも大きなケガや病気、事故にも遭わず楽しく過ごせたようで、今日、みんな元気よく登校できました。ご家庭での規則正しい生活に感謝いたします。

さて、正月番組を見ていますと、初夢の話がいつも出てきます。

縁起のよい初夢は、「一富士 二鷹 三茄子」(いちふじ にたか さんなすび) といひます。それは皆さんもよくご存じだと思ひますが、そのあと四番目や五番目がある事を知ってましたか。知らなくて、調べてみますと、ことわざの一種で正月2日の初夢に見るものの中で縁起のよいものの順位とありました。このことわざが一般に流行ったのは、江戸時代中期で「駿河(するが)国(静岡県中央部)の諺で、駿河の名物を順にあげたとする説がもっとも有力だそうです。江戸時代の国語辞書『俚言集覧(りげんしゅうらん)』によれば、駿河の名物を「一富士二鷹三茄子四扇五煙草(たばこ)六座頭」とすると書かれています。

結局、徳川家康があげた駿河の国の高いものの順位、すなわち一に富士、二に愛鷹(あしたか)山(足高山)、三に初茄子の値段といたこと由来とする説が有力で、富士は高く大きく、鷹はつかみ取る、茄子は「成す」に通じて縁起のよい物とするとありました。4番以降については、四扇(しおうぎ)五煙草(ごたばこ)六座頭(ろくざとう)だそうです。そして、一番から六番がそれぞれに結びついて「富士と扇=末広がり子孫や商売繁盛を願う」「鷹と煙草の煙=上昇するもので運気上昇を願う」「茄子と座頭=毛がないのでケガなしの意味で家内安全を願う」という組み合わせになっているようです。江戸しぐさといい、江戸時代の人々の迷信深さや洒落っ気は、本当におもしろく、よく考えられていますよね。



今年のお正月、皆さんはどんな夢や目標を持たれたでしょうか。3学期は、卒業式まで48日、修了式まで51日です。中学校進学や次の学年への進級のために、一年のまとめをしっかりとし、こつこつと努力を続けることが大切だと思います。授業中にがんばって発表すること、教科書を間違わずに音読すること、学んだ漢字の読み書きや計算を正確にすること、苦手な縄跳びや鉄棒ができるように練習すること、忘れ物をしないで持ち物をそろえて授業に臨むことなど、小さなことでいいので目標や課題をしっかりと持ち、夢に向かって努力を続けて下さい。ご家庭や学校がしっかりと後押しをしていきます。

校長 土井 安博